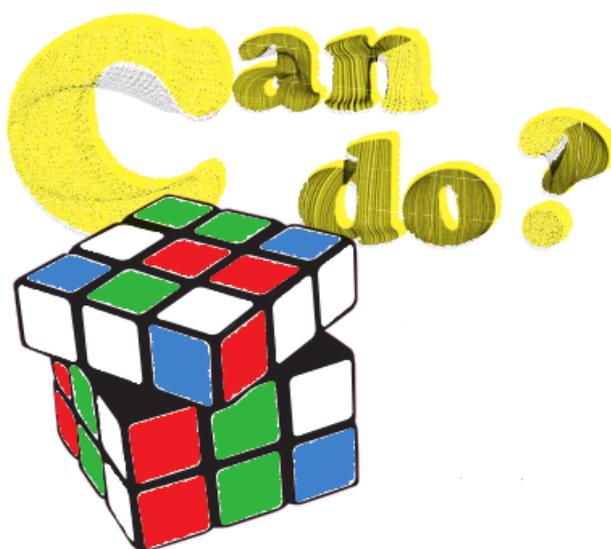


# 外国語教育セミナー

～ CAN DO リスト活用と、つながりと社会活動を通じた言葉の学び



**日 時**：2013年8月10日（土）10:30-16:45

**会 場**：上智大学四谷キャンパス 中央図書館棟 9階 L-921

**主 催**：公益財団法人国際文化フォーラム

**共 催**：上智大学言語教育研究センター

**後 援**：文部科学省



上智大学 言語教育研究センター



公益財団法人国際文化フォーラム

問合せ：03-5981-5226 | [snaseminar@tjf.or.jp](mailto:snaseminar@tjf.or.jp)

## ★講師：



### 吉田研作（よしだけんさく）

上智大学教授。上智大学言語教育研究センター長。  
文部科学省の外国語教育における「CAN DO リスト」の形での学習到達目標設定に関する検討会議で座長を務める。



### 當作靖彦（とうさくやすひこ）

カリフォルニア大学サンディエゴ校教授。アメリカ日本語教育学会会長。  
現在世界9カ国で実施している日本語教育改善プロジェクトの責任統括者。

## ★日程：

10:30～12:00／講義：

### 「外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定」について

近年、国際社会では、世界中の人々と力をあわせて世界の平和と繁栄に貢献できる人材の育成が求められるようになった。文部科学省は、「外国語は、グローバル社会を生きる我が国の子どもたちの可能性を大きく広げる上で重要なものであるとともに、日本の国際競争力を高めていく上での重要な要素となっている。」とし、「各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定の手引き\*1を今年3月にとりまとめ、理解と活用を促している。

本セミナーでは、前述の「手引き」について触れながら、「CAN-DOリスト」を活用した英語(外国語)教育の意義について考える。

13:30～15:00／講義：

### つながりと社会活動を通じたことばの学びを考える～『外国語学習のめやす』を例に

テクノロジーが急速に発達する中、ソーシャルメディアの使用が拡大し、今や多くの情報がソーシャルメディアを通して発信され、ソーシャルメディアがコミュニケーションの重要な媒体となっています。世界中で一分間に98,000以上のツイートが送られ、600以上、25時間分のYoutubeビデオがアップロードされ、79,000のFacebookのウォールがポストされ、510,000以上のコメントが加えられています。Facebookが革命を引き起こす力となったり、Twitterが人の心を変え、世論を作っていく時代となっています。

人類始まってから2013年までに人間が作り出した情報量を現在は2日で生み出し、来年には10分ごとにこの情報量が生み出されると言われています。このうちの75%は個人がソーシャルメディアなどを通して生み出してい

る情報と言われます。このようなソーシャルメディアの使用の中、言語の持つ機能、言語自体の特徴も大きく変わりつつあります。言語教育もこのような変化を反映したものでなければなりません。

言語を使って「つながり」を作り、社会活動を行っていく能力を身につけることを言語教育の目標とするのが国際文化フォーラムの「外国語学習のめやす」です。

この講義では21世紀のグローバル社会で言語を使い、社会を作っていく能力をつける、21世紀の世界を反映した外国語教育のアプローチを示す「外国語教育のめやす」を通して、私たちが行っている言語教育を見直してみます。

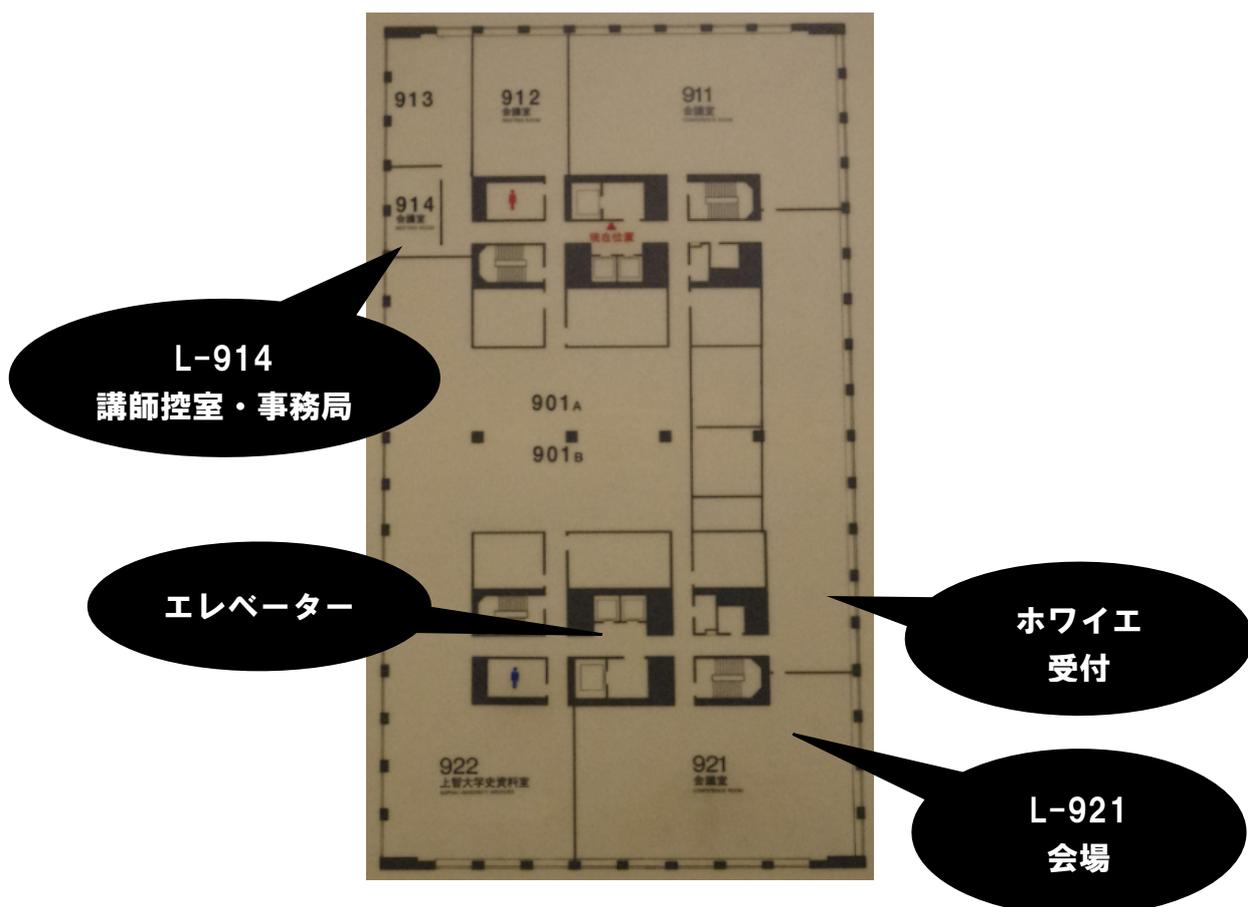
## 15:15~16:45／ワークショップ： Can-doによる学習達成目標設定と評価

国際文化フォーラムの「外国語学習のめやす」の作成の背景には、できるだけ高い目標を設定し、それを達成するように教えることにより教育効果を上げ、外国語教育の質を上げようというスタンダード・ムーブメントの考えがあります。「学習のめやす」では、教科書をもとにカリキュラムを決めるのではなく、学習者のニーズをもとに達成したい目標を決定し、それをもとにカリキュラムを作ることを提唱しています。また、目標を達成したかどうかを調べる評価を教える前に作ってしまうことも推奨しています。

このように設定した目標、評価方法、評価基準をクラスの最初に学習者に提示することにより、学習の目標、目標達成のためのロードマップを知らせ、より効果的な学習をすることを可能にします。また、言語教育の目標が多様化する中、言語能力のみならず、文化能力、社会能力、ICT能力などの目標も設定、提示されなければなりません。いろいろな意味で、クラスのシラバスの果たす役割はますます重要なものになってきたと言えます。

このワークショップでは、クラスのシラバスで学習者にCan-do記述によりどのようにクラスのゴール、オブジェクティブ、アウトカム、そしてアウトカムをもとにした評価方法、評価基準を示すことが可能か考えてみます。

### ★フロアマップ:



<https://www.facebook.com/TheJapanForum>

★本日のセミナーの様子は、TJFのfacebookで紹介します。アクセスして、是非「いいね！」してください！

